

曾根遺跡群Ⅱ

# 平原周辺遺跡

(7)

福岡県前原市国指定史跡「曾根遺跡群」

重要遺跡確認調査概要

前原市文化財調査報告書

第 61 集



1996

前原市教育委員会

# 序 文

平原遺跡は昭和40年に発見され故原田大六氏を中心に発掘調査が実施されました。当時はのどかな田園風景が広がっていたこの地にも、昭和50年代後半には宅地化の波が押し寄せ、現在では遺跡のすぐ傍にも住宅が建ち並ぶようになってまいりました。このことを憂慮した当教育委員会では、平原遺跡周辺の実態を把握するために昭和63年度から国・県の補助を受けまして確認調査を実施しているところであります。

本年度は、平成5年度に調査しました調査地の北側の確認調査を実施いたしました。その結果、木棺墓3基・土坑2基・ピット多数を検出しました。平成5年度に調査しました調査地からも木棺墓を検出していることから、当調査区周辺に木棺墓群が分布していたことが確認されました。

昨今の不況下にあっても住宅建設は増加の途をたどっており、平原遺跡周辺においても例外ではありません。当教育委員会といたしましては今後もさらに確認調査を実施するとともに、遺跡の保存・環境整備等様々な課題の解決に向けて一層の努力をいたす所存であります。

なお末筆となりましたが、今回の発掘調査について快く承諾していただきました地権者の松下三雄氏には深謝の意を表します。

平成8年3月31日

前原市教育委員会

教育長 樗 木 昭 生

# 例 言

1. 本書は平成7年度に国・県の補助を受けて前原市教育委員会が実施した平原周辺遺跡の重要遺跡跡認緊急調査の概要報告である。
2. 本書に掲載した遺構実測図の作成は瓜生秀文、川上豊子、川上久美子、市丸千賀子、坂本悦子、米山八重子が行った。
3. 本書に掲載した図面の製図は瓜生が行った。
4. 本書に掲載した現場写真の撮影は瓜生が行い、遺跡全景写真の撮影は仰空中写真企画が行った。
5. 本書に示した方位は座標北である。
6. 本書の執筆、編集は瓜生が行った。

# 本文目次

I. はじめに	1
1. 調査にいたる経過	1
2. 調査の組織	1
II. 調査の記録	3
1. 調査の概要	3
2. 遺構各説	6
III. おわりに	8

# 挿図目次

Fig. I 平原遺跡出土品 I (重要文化財)	
Fig. II 平原遺跡出土品 II (重要文化財)	10
Fig. 1 平原遺跡周辺地籍図 (1/1,500)	1
Fig. 2 平原遺跡の位置と周辺の主な遺跡 (1/10,000)	2
Fig. 3 平原遺跡と調査地点 (東より)	3
Fig. 4 調査区全体図 (1/50)	4
Fig. 5 1号木棺墓 (南東より)	6
Fig. 6 2号木棺墓 (南西より)	6
Fig. 7 3号木棺墓 (東より)	7
Fig. 8 調査区全景	7
Fig. 9 第1～8次調査トレンチ位置図 (1/500)	9



内行花文鏡  
(10号鏡 径46.5cm)



内行花文鏡  
(12号鏡 径46.5cm)

Fig. I 平原遺跡出土品 I (重要文化財)

# I. はじめに

## 1. 調査にいたる経過

平原遺跡（「国指定史跡曾根遺跡群」）周辺の重要遺跡確認緊急調査は昭和63年度から平成6年度まで7次にわたり実施している（岡部1990、1991 角1992、1993、1994、1995）。昨年度までの調査で方形周溝墓1、円形住居跡7、甕棺墓1、木棺墓1、土坑、ピット等が確認されている。方形周溝墓（5号墳）は弥生時代後期初頭～前半のもので1号墓との関連が目される。甕棺墓は小児棺で上・下棺ともに壺形土器を使用している。時期は弥生時代中期初頭と考えられる。住居跡はいずれも弥生時代中期初頭～前半と考えられ、短期間ではあるが集落が存在していたことが判明した。また、夜臼期のもと思われる土器片も出土しており、その時期の遺構の存在も予想される。このような状況のなかで本年度は、平成5年度の調査地の北側を確認調査した。

指定地の北側については、大字有田8番地（岡部1991）、7-2番地（角1994）の確認調査を実施している。その結果によると円形住居跡、土坑、ピットが検出されている。墳墓遺構と考えられるものは、木棺墓1と1号墓関連の溝のみである。

今年度は平成5年度調査地の北側について墳墓遺構の広がりを確認することを調査の目的とした。

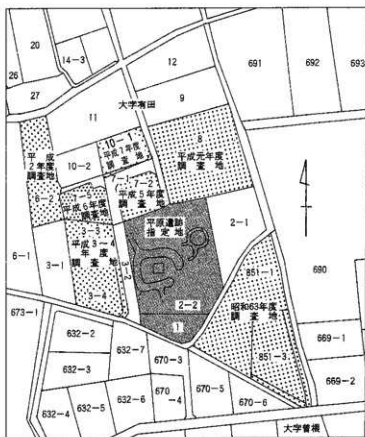


Fig.1 平原遺跡馬辺地籍図（1/1,500）

## 2. 調査の組織

本年度の発掘調査に関わる組織は以下のとおりである。

地権者	松下三雄		
調査主体	前原市教育委員会		
総括	教育長	榑木 昭生	
	教育部長	中原 直国	
	文化課長	井上 尚	
	文化課文化財係長	川村 博	
庶務	同 文化振興係長	宮本 洋子	
調査	同 文化財係主事	角 浩行・瓜生 秀文	

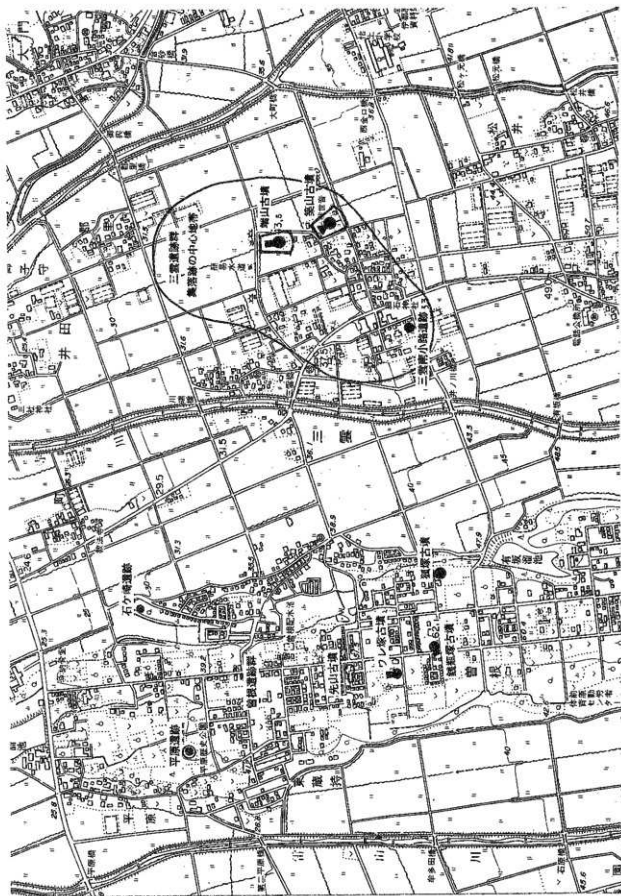


Fig. 2 平原遺跡の位置と周辺の主な遺跡 (1/10,000)

## Ⅱ. 調査の記録

### 1. 調査の概要

調査の承諾を得た10-1番地は以前は畑であったが、現在の地目は雑種地である。現状は雑草が生い茂り、小樹木が数本見られるような状況であった。そこで伐採の後に調査地内にトレンチを設定した。トレンチは当初長さ14m、幅10mであったが、後に西端を長さ3m、幅8mほど拡張した。

トレンチ設定の後、人力により表土の除去を行い、遺構の検出を行った。調査地点の層序は上層より黒褐色土層（表土、厚さ約5～10cm）、暗灰褐色混砂土層（耕作土、厚さ約10～15cm）、黄褐色粘質土（地山）である。遺構は黄褐色粘質土層上面で検出された。検出した遺構は木棺墓3、土坑2、ピット多数である。

今回の調査の目的であった墳墓遺構の分布の確認であるが、平成5年度調査地からも木棺墓1を検出していることから当調査地周辺に木棺墓群があったと考えられる。しかし、時期を決定できるだけの遺物は出土しなかった。土坑については平面プランが楕円形と方形のものが見られる。ピットについてはこれまでの調査に比べて、かなり多い印象を受けた。掘立柱建物が3棟ほど建つと考えられる。



Fig. 3 平原遺跡と調査地点（東より）

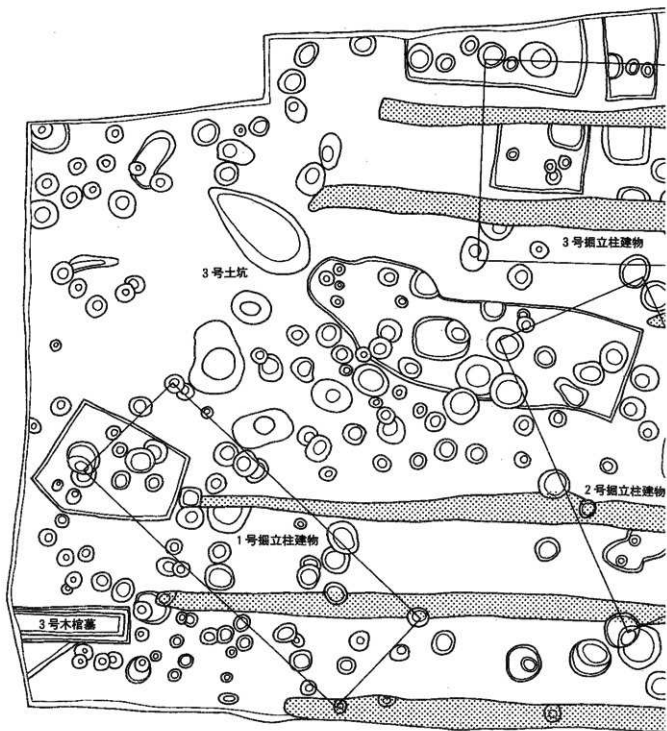
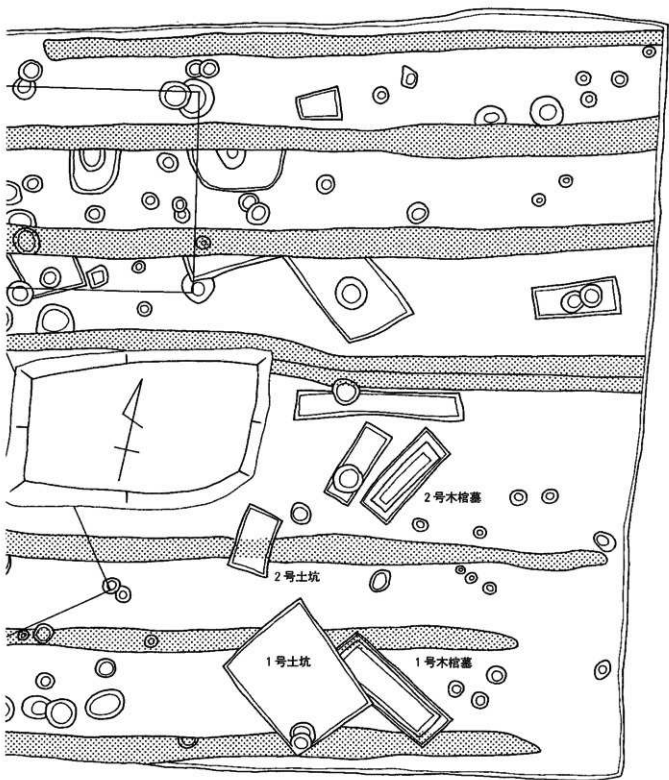


Fig. 4 調査区全体図 (1/50)





## 2. 遺構各説

### (1) 木棺墓

#### 1号木棺墓

調査区の北西部で検出された。主軸を北西にとる。掘方は2段に掘られ、1段目の掘方はほぼ長方形を呈し、長さ174cm、幅60cmを測る。2段目の掘方もほぼ長方形を呈し、長さ150cm、幅47cmを測る。深さは約30cmである。木棺は遺存していない。出土遺物はなかった。時期は不明である。

#### 2号木棺墓

調査区の中央部で検出された。主軸を北東にとる。掘方は2段に掘られ、1段目の掘方はほぼ長方形を呈し、長さ135cm、幅53cmを測る。2段目の掘方もほぼ長方形を呈し、長さ114cm、幅35cmを測る。深さは約10cmである。木棺は遺存していない。出土遺物はなかった。時期は不明である。

#### 3号木棺墓

調査区の西南隅で検出された。主軸を西南にとる。掘方は2段に掘られ、1段目の掘方はほぼ長方形を呈し、現存長さ145cm、幅53cmを測る。2段目の掘方もほぼ長方形を呈し、現存長さ140cm、幅38cmを測る。深さは約15cmである。木棺は遺存していない。出土遺物はなかった。時期は不明である。

### (2) 土坑

#### 1号土坑

調査区の南東部で検出された。長方形のプランを呈し、1号木棺墓を切っている。長径約150cm短径約120cmを測る。

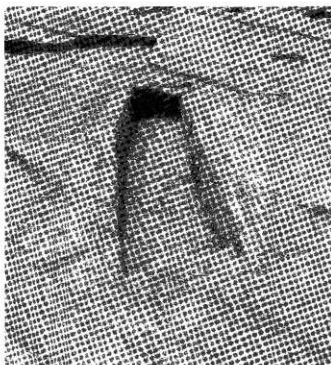


Fig. 5 1号木棺墓 (南東より)

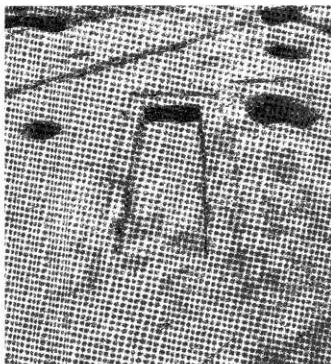


Fig. 6 2号木棺墓 (南西より)

深さは10cmである。遺構内に木棺等の埋納施設は確認できなかった。出土遺物はなく、時期は不明である。

#### 2号土坑

1号土坑の北側約1mに位置する。長方形のプランを呈し、長径約90cm、短径約60cmを測る。遺構内に木棺等の埋納施設は確認できなかった。出土遺物はなく、時期は不明である。

#### 3号土坑

調査区の北西部で検出された。楕円形のプランを呈し、長径約160cm、短径約80cmを測る。遺構内に木棺等の埋納施設は確認できなかった。出土遺物はなく、時期は不明である。

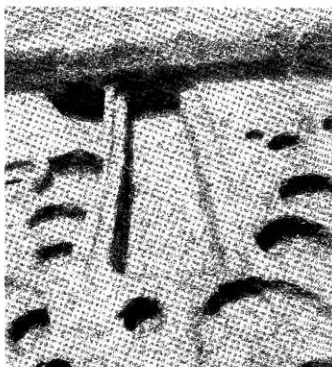


Fig.7 3号木棺基(東より)

### (3) 掘立柱建物

#### 1号掘立柱建物

調査区の北西部で検出された。総柱の掘立柱建物で、1間×3間のプランである。主軸を北西方向に置く。出土遺物はなく、時期は不明である。

#### 2号掘立柱建物

調査区の中央部で検出された。総柱の掘立柱建物で、1間×2間のプランである。主軸を北西方向に置く。出土遺物はなく、時期は不明である。

#### 3号掘立柱建物

調査区の北部で検出された。総柱の掘立柱建物で、1間×2間のプランである。主軸を北東方向に置く。出土遺物はなく、時期は不明である。

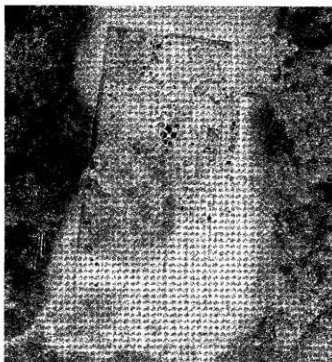


Fig.8 調査区全景

### (4) その他の遺構

調査区の南西部に円形住居跡と想定し得るピット群を2棟分検出している。ただし、いずれもかなり削平されているため旧状を知り得ず、円形住居跡と確認するまでにはいたらなかった。

### Ⅲ. おわりに

今回の調査の目的のひとつに平成5年度調査地の北側について、墳墓遺構の広がりを確認することがあった。結果は木棺墓が3基検出されたのみであった。平成5年度の調査で木棺墓が検出されていることから、今回の調査地周辺に木棺墓等の墳墓遺構の広がりがあることが明らかになった。しかし、方形周溝墓は検出されなかった。平成元年度に調査を行った8番地、平成5年度に調査を行った7-2番地においても方形周溝墓は確認されていない。このことから考えて、平原1号墓・平原5号墓の北側には方形周溝墓はもともと存在しなかったと考えられる。

それでは、南側についてはどうであろうか。指定地の南側は現在すでに住宅が立ち並んでいるため旧状を知る手掛かりは皆無である。ただし、現在平原歴史公園となっている大字首根851-1、3番地については、昭和63年度に確認調査をおこなっている。その結果、住居跡、溝、ピット等の遺構は検出されたが、方形周溝墓は検出されなかった。ここでも遺構はかなり削平を受けているため方形周溝墓は消滅したと考えることができるが、平成3～4年度に確認調査を行った3-3、4番地からは住居跡と方形周溝墓を検出しており、その遺構の残存状況から考えると、当調査地において削平のため方形周溝墓が消滅したとは考えにくい。以上から指定地の南側にも方形周溝墓は存在しなかったと考えられる。

指定地の東側についてはまだ確認調査を行っていない。西側については平成3～4年度に3-3番地を確認調査した結果、方形周溝墓1基と住居跡1棟等を検出している。東側・西側ともに未調査の土地があり、今後の調査に期すところである。

#### (引用文献)

岡部 裕 俊	1990	『平原周辺遺跡(1)』	前原町教育委員会
岡部 裕 俊	1991	『平原周辺遺跡(2)』	前原町教育委員会
角 浩 行	1992	『平原周辺遺跡(3)』	前原町教育委員会
角 浩 行	1993	『平原周辺遺跡(4)』	前原市教育委員会
角 浩 行	1994	『平原周辺遺跡(5)』	前原市教育委員会
角 浩 行	1995	『平原周辺遺跡(6)』	前原市教育委員会

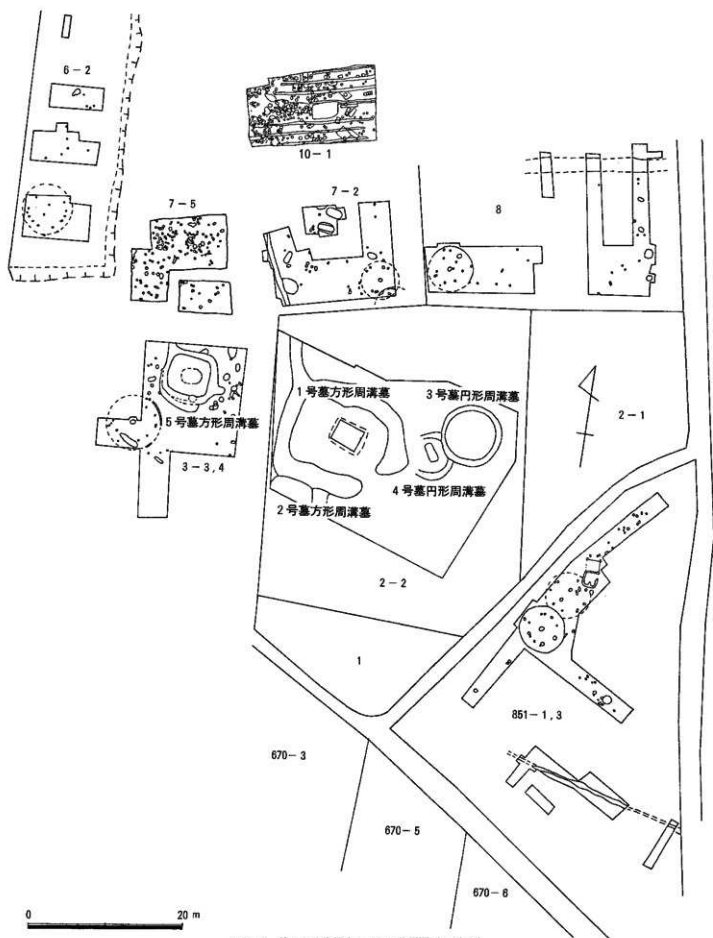
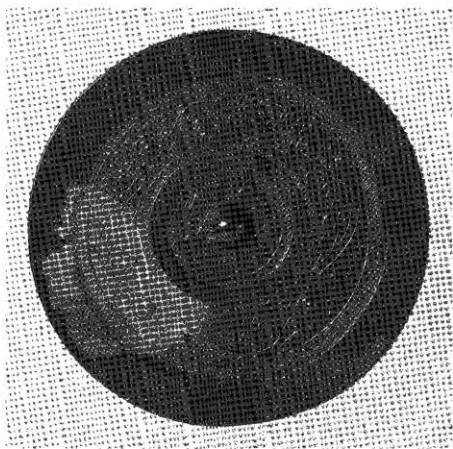
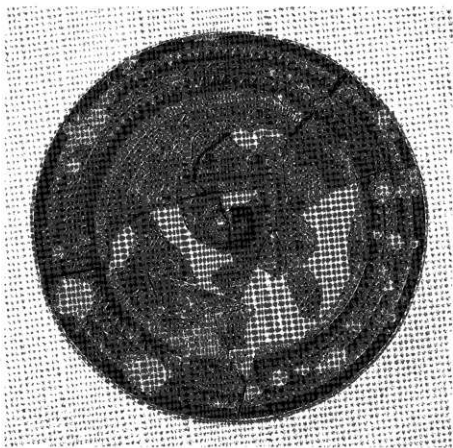


Fig. 9 第1～8次調査トレンチ位置図 (1/500)



四葉鏡  
(16号鏡 径16.5 cm)



方格規矩鏡  
(36号鏡 径16.4 cm)

Fig. II 平原遺跡出土品II (重要文化財)

## 報告書抄録

フリガナ	ヒラバルシユウヘンイセキ(7)							
書名	平原周辺遺跡(7)							
副書名	福岡県前原市国指定史跡「曾根遺跡群」重要遺跡確認調査概要							
巻次								
シリーズ名	前原市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第61集							
編集者名	瓜生秀文							
編集機関	前原市教育委員会							
所在地	福 <sup>コソバル</sup> 岡 <sup>アヲク</sup> 県 <sup>ヒラバル</sup> 前原市大字有田字平原							
発行年月日	西暦1996年3月31日							
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
ヒラバルシユウヘンイセキ 平原周辺遺跡	前原市大字 有田字平原			33° 32'	130° 14'	1996. 2. 1~ 3.29	164	重要遺跡確認 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
平原周辺遺跡	墳墓群集落	弥生中期 ~後期	方形周溝墓 1基 木棺墓 4基 土坑 8基 円形住居跡 2軒 掘立柱建物 3棟	弥生土器・石器				

### 平原周辺遺跡

(7)

前原市文化財調査報告書

第 61 集

平成 8 年 3 月 31 日

発行 前原市教育委員会  
福岡県前原市大字前原623番地

印刷 株式会社 津村愛文堂  
福岡市早良区室見2丁目16-8

